Construction of Digital Archives of Shoe Designer Kisa Takada : Demonstration at Shoe Exhibition

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2014-01-31
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: KAIHARA, Toshio
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/3888

BY-NC-ND

シューズデザイナー高田喜佐のデジタルアーカイブ作成
―高田喜佐 ザ・シューズ展での活用―

学芸学部　被服学科　飼原　壽夫

要旨：神戸ファッション美術館にて高田喜佐のザ・シューズ展が開催されるのに合わせて、寄贈された 1600 点余りある靴や資料を、来館者向けに年譜と関連付けたデジタルアーカイブとして作成し、開催中に運用する試みを行いました。作成したシステムを利用して創作の背景の理解も進められるように、資料の関連付けが出来るリレーショナルデータベースを活用し、来館者が簡単な操作で利用できるようにしました。高精細度で撮影した多方向からの靴やダイレクトメールの資料画像を、容易に選択して部分拡大できるようにし、作品を年譜にまとめた人生の出来事に関連付けて検索できるようにしました。一般に、デジタルアーカイブの構築では、インターネットへの公開と他組織との連携を目指す方向を考えますが、美術館の場合はむしろ館内利用や研究利用に限定するシステムの構築を進めることで特色あるサービスや情報発信が生まれるのではないかと考えました。

キーワード：デジタルアーカイブ、画像データベース、靴、ファッション、学館協働、Access

1. はじめに

2013 年 4 月 18 日から 7 月 2 日まで、神戸ファッション美術館にて高田喜佐（1941–2006）のザ・シューズ展が開催されました。彼女が靴デザイナーとして 1966 年から 41 年間に世に送り出し、自身で保存されていた 1600 点余りの靴や、デザイン画、写真、映像が神戸ファッション美術館に寄贈されたのを機会に展覧会が開催されました。

今回、神戸ファッション美術館と大阪樟蔭女子大学被服学科との、10 年にわたる学館協働事業での連携を深める機会として、寄贈資料のデジタルアーカイブの作成を試みることにしました。

＊「収録データの範囲」

寄贈された靴については、既に東京造形大学テキスタイル学科の須藤玲子先生が、各靴の属性を調査され、写真とともに Excel ファイルに収められたものを利用することができました。また、大阪樟蔭女子大学被服学科の北尾和信先生の指導学生による、各靴のより高精細度の多方向からの撮影画像や、靴以外に寄贈された作品や資料として、高田喜佐自身によるデザイン画が多く含まれたダイレクトメールやクリスマスカード、年賀状の高精細度の撮影画像も利用できることになりました。

＊「制作物の到達目標の検討」

デジタルアーカイブを計画する過程で、美術館との間で作成の目的を検討しました。先ず、展覧会開催中に、来館者が展示された靴の実物を鑑賞するだけでなくその詳しい情報を検索して知ることができるようにすること。高田喜佐の 66 年間の生涯の出来事が年譜の形で作成されているので、作品の発表年を参考にリンク付けして行き、現時点では発表年が不明な作品や今後関連が明らかになって行く資料があれば容易にリンク付けできるようにしておくこと。来館者がコンピュータの操作が不得意であっても容易に検索して活用できる配慮をすること。展覧会終了後も、靴のデザインに関心のある人や研究者に活用してもらうことで、データベースの完成度を高めていくこと。また、一般的に、デジタルアーカイブの作成により美術館が収集した資料の利活用を進めることができそうなので、今後、美術館が所蔵する他の資料のデジタルアーカイブ化を進める際の参考となること。

様々な要求と、可能性を持ったデジタルアーカイブの作成の機会でありましたが、第一に、展覧会の開催に間に合い、かつ一般の来館者に活用していただける品質のシステムの制作を目標にしました。

2. 高田喜佐の生い立ち、シューズデザイナーの人生

高田喜佐の生涯は、年譜としてデータベースにも収

録しています［高田邦雄, 2013］。以下は資料から、抜粋しました。

「1941 年東京に生まれ、父は商社マン、母は後の詩人・高田敏子。」［公益財団法人花と緑の農芸財団, 2008 年春に発行の「花の心第 49 号」］

「1942 年　1 歳。父の仕事の関係で、台湾・高雄に渡る。」

「1946 年　5 歳。引き揚げ、東京に。西荻窪の母方祖母の家に身を寄せる。祖母・塩田イトは、日本橋の瀬戸物問屋の家付き娘。陽気で勝ち気で話上手。祖母との暮らしが、後のきもの好きや江戸趣味に影響を与えたと思われる。」「1948 年　高田馬場に家を得て移り住む。父は出張で留守がち、母は洋裁で家計を助けつつ、やがて詩作の世界に。そんな中、夏休みは逗子・葉山海岸の父親の会社の寮で過ごす。またニューヨークに単身赴任となった父親がもたらす家庭用品や雑誌によってアメリカの文化に触れる。」この頃、日本舞踊を習っている。

「1964 年　多摩美術大学図案科（現在のグラフィックデザイン学科）卒業。」「1966 年　銀座・中林画廊で、初の個展「靴のファンタジー」を開催。この時、思いも掛けず来訪者からオーダーが入ったことにより、ブランド「KISA」が生まれる（69 年に「KISSA」に改名）。」「1967 年　初めてのヨーロッパ旅行に出掛ける。」「1969 年　ニューヨーク旅行に出かける。第 2 回個展「靴のファンタジー」展を開く。」

「1970 年　「ポックリ」を発表。」「ファッション誌「anan」に掲載され話題になる。これを契機に、プロの靴デザイナーとして本格的に活動しはじめる。渋谷西武「KISSA」コーナーで、「ポックリ」を発売。「TORAY NIT EXHIBITION」ショーで、山本寛斎氏のショーの靴を制作、また三宅一生氏と出会う。」「1972 年　婦人靴専門店、㈱ダイアナ靴店（現・ダイアナ㈱）のポスター用の靴を制作。2 年間、ダイアナ靴店と嘱託デザイナー契約を結び、ダイアナオリジナルや PR 用靴のデザインを手がける。」

「1973 年　月星化成㈱（現・㈱ムーンスター）の協力を得て、 子どもの頃から大好きだったズック靴の商品化を果たし、「大人のズック」が誕生。」「1974 年「コム・デ・ギャルソン」「ヨーガン・レール」のショーの靴およびオリジナル商品や、「anan」「装苑」「服装」などの雑誌用、PR 誌用の靴を制作する。」「1976 年　月星化成㈱（現・㈱ムーンスター）とライセンス契約を結び「KISSA SPORT」が誕生。」「1977 年　株式会社キサ設立。渋谷パルコ Part2 に「ブティック KISSA」を開店。オープン時の DM のキャッチフレーズは「大地に KISS を捧げます。」紳士靴メーカーとの出会いによって、「マニッシュ」を明確に意識した靴づくりをスタート。紳士靴を女性靴に写したマニッシュな靴が「KISSA」の顔となる。」

「1982 年　札幌パルコに「ブティック KISSA」がオープン。」「1984 年　43 歳でオートバイの中型免許を取得。」「1985 年　渋谷パルコ Part2 に「ブティック KISSA FOR MEN」をオープン。ニューヨークで開催の世界的な靴見本市「NATIONAL SHOE FAIR」に「KISSA SPORT」を出展。シンシナティの靴企業から引き合いがあり、海外販売を意図して渡米するが、意向が合わず断念する。オートバイ好きが嵩じて、ライダーブーツをデザイン。初めての著作「私の靴物語」（主婦と生活社）出版。」

［高田喜佐, 私の靴物語, 1986］［高田喜佐, 私の靴物語, 1988］［高田喜佐, ジャズマンは黒い靴, 1988］

「1989 年　会社を縮小。南青山のそれまでのショールームを改装して、白い壁と廃材の床、木のベンチがある 9 坪の「ブティック KISSA」を開き、それ以外は閉店する。母、詩人高田敏子死去。葉山に週末の家を得る。きもの、茶道など和の世界に関心を寄せるようになる。」

「1991 年　作品集「Shoe, Shoe PARADISE」（リブロボード）を出版。［高田喜佐, Shoe, Shoe PARADISE, 1991］出版に合わせて、ザ・ギンザアートスペース（東京・銀座）で同名の展覧会を開催。「素足が好き」（大和書房）出版。」

［高田喜佐, 素足が好き, 1991］「1994 年「大地に KISS を」（文化出版局）を出版。」

［高田喜佐, 大地に kiss を：喜佐の靴あと, 1994］「1995 年　草履サンダルと、こはぜブーツを商品化。「太陽と靴と風と」（河出書房新社）出版。［高田喜佐, 太陽と靴と風と, 1995］「KISSA」のカタログや DM を集めた個展「KISSA & Hand−some 展」を東京デザイナーズスペース（六本木 AXIS）にて開催。」

「1999 年「靴を探しに」（筑摩書房）、［高田喜佐, 靴を探しに, 1999］「裸足の旅は終わらない/十二色のメッセージ」（学習研究社）出版。［高田喜佐, 裸足の旅は終らない：靴と私の物語, 1999］「靴を探しに」で日本文芸大賞自伝優秀賞を受賞。」

「2000 年「素足が好き」文庫版（筑摩書房）出版。」

［高田喜佐, 素足が好き, 2000］「2003 年「暮らしに生かす江戸の粋」（集英社）出版。」

［高田喜佐, 暮らしに生かす江戸の粋, 2003］

「2005年　病を得て手術するが、2ヵ月余りで仕事に復帰。」「2006年　1月　NHK教育テレビ「おしゃれ工房」に出演、きものライフを披露する。2月　肝内胆管癌にて他界。享年64歳。5月　東京・西麻布のギャラリー　ル・ベインにて「高田喜佐回顧展」が開かれる。」

3. 作品の分類に用いた特徴

各靴は、靴の形状を主とした分類記号（XF, X, RB, R, S, M, Z, B, W, L）と連番で識別されています。Bはブーツ、Lはレディース、Mはメンズ（男性用）、RとRBはラバーシューズ、XFは復刻作品（2009年、2010年に復刻された作品）、Wはマニッシュ（女性用）、Sはサボ（木底のサンダル）、Zは草履サンダルを表しています。

その他、制作年、シーズン（S/Sは春夏コレクション、A/Wは秋冬コレクション）、メーカー（キング、セントラル、ダイアナ、ダイアナオリジナル、フォルム、ミラクル、宮崎製靴、月星化成、広川、高頭、春日、神谷、内田、日進ゴム、末光、不明）、素材、サイズ（cm）、靴の胴回り、ヒールの高さ、重量、ロゴタイプ、色、柄、靴の向き（左、右、両方）、収納箱No、の特徴で識別されています。草履サンダルについては、鼻緒の柄と飾りの特徴記述があります。

備考の項目に、上記の特徴記述や数値化以外の情報が含められています。個展、写真集用、ポスター用、参考商品、クリスマスブーツ、装飾の説明、復刻版、内側素材、靴紐素材、表示ブランド、作品集掲載ページ［高田喜佐, Shoe, Shoe PARADISE, 1991］、没としたもの、といった記載があります。

これらの属性は全て検索の対象とできますが、一般利用者向けの画像の表示を中心にした検索用フォームを作ることを今回の目標としましたので、キーワードによる検索機能は装備しませんでした。

4. 作品データベースの構築

最初に入手した東京造形大学テキスタイル学科の須藤玲子先生作成のExcelファイルには、靴の形状を主とした分類（XF, X, RB, R, S, M, Z, B, W, L）に基づいて各シートあたり最大80作品の靴の情報を収録しています。作品ごとにカード型の領域に画像もセルに含めて情報が登録されており、これを1行に1レコードとなるようにExcelのマクロで変形しデータベースへの移行ファイルを作成しました。また、セルに入っている画像を直接指定して抽出するのは難しく、文字情報とは別に、GIF形式（302x225ピクセル、8bitカラー）とPNG形式（471x225ピクセル、32bit（24ビットカラー））の画像ファイルとしで抽出しました。大阪樟蔭女子大学被服学科の北尾和信先生の指導学生による、各靴のより高精細度の撮影画像は、JPG形式（4320x3240ピクセル、24ビットカラー）で、相当の拡大に耐える画像であり、この特性を生かしたデータベースを作成する方針としました。

＊「データ管理ソフトの選択」

作品ごとに収集された属性が文字データと画像ファイルの形であったので、複数の表形式のデータが関連させて扱えるリレーショナルデータベースを使うことにしました。

靴のデータの場合、約1500点の文字形式の属性以外に、画像がGIF形式（15KB）とPNG形式（250KB）がそれぞれ2〜3個、JPG形式（1〜3MB）を7個保存する必要があります。

Microsoft Access（MS Access）の場合、表に含めるデータ型にOLEオブジェクト型があり、画像データもそのまま登録することができます。その後の扱いも容易なのですが、Accessのデータベースファイルの最大サイズが2GBまでという制約があります。Microsoft SQLServerやMySQLなどを用いてデータベースのサーバーを構築する場合、このデータサイズの制限がなくなり、また、将来、ネットワーク経由での作品データの閲覧を可能としたい場合には移行しやすいというメリットがあります。

当面、著作権の点からサービス提供の範囲を所蔵している美術館内部に限定するのが無難であると考えられる点と、MS Accessのフォーム設計が比較的容易なため制作時間が短縮される点を重視しました。データベースファイルの最大サイズが2GBである制約は、画像データそのものをデータベースには登録せずに、画像ファイルのファイル名を文字情報として登録することにしました。全ての画像データをデータベースに含めずに外部のファイルとして保存しているので、最終的に出来上がったAccessデータベースのファイルサイズは187MBになり、今後データを付け加えても十分な余裕があります。

＊「追加のツールソフト」

今回制作するデジタルアーカイブに含まれるデータの特徴の一つとして、靴に関しては多方向（前、左、後ろ、右、斜め、上、底の7方向）からの精細画像があり、ダイレクトメールについても、表裏を精細画像にして保存しています。従って、これらの画像の一部

分を自由な倍率で拡大表示して観察することで、素材細部の構造の観察や、小さなロゴやシール上の手書き文字の読み取り、ダイレクトメール上のデザイン画や文字の読み取りなどが可能になります。その結果、細かな疑問点の解決や新たな発見を得ることができます。

ただし、MS Access 自体には画像の移動・拡大・縮小表示の機能は備わっていないので、ImageView クラスモジュール（ClGdi32/ClGdiPlus）をインポートしてイベントプロシージャの設定をしています。

画像ファイル（PNG 形式、JPG 形式）の背景の消去、サイズ変更、フォーム上のボタンに貼り付ける画像の作成のために、Adobe Photoshop、Adobe FireWorks を使用しています。GIF 形式の画像の編集にはペイントを使用しています。

完成した Access データベースのファイル用アイコンを作成するためにフリーソフト ToYcon を使用しています。

*「作成したデータテーブル」

(1) 東京造形大学テキスタイル学科作成の靴データのテーブル

Excel ファイルから、Access のテーブルへインポートしています。

Kissa表		
フィールド名	Accessデータ型	説明
ID	数値型	(主キー)通し番号(1～1467)
シート内Num	数値型	Excelファイルのシート内での登録順
Num	短いテキスト	Excelファイルでの分類番号(No.)
年代	短いテキスト	発表西暦年とシーズン
メーカー	短いテキスト	製造メーカー
素材	短いテキスト	使用素材
size	短いテキスト	靴のサイズ
収納Num	短いテキスト	保管用ケースの番号(収納No.)
備考	短いテキスト	補足情報、掲載ページ(Shoe,Shoe PARADISE)

(2) 靴画像のファイル名のテーブル

データベースには画像ファイル名だけを登録しており、次の ImagePathTable 表の示すフォルダから探して読み込み、フォーム上に表示しています。

Kissa表_image		
フィールド名	Accessデータ型	説明
ID	オートナンバー型	(主キー)固有番号(表連結に使用せず)
Num	短いテキスト	Excelファイルでの分類番号(No.)
image1	短いテキスト	左側写真ファイル名(png)
image2	短いテキスト	右側写真(png)
image3	短いテキスト	左側写真(gif)
image4	短いテキスト	右側写真(gif)
image5	短いテキスト	備考写真(png)
image6	短いテキスト	備考写真(gif)
image7	短いテキスト	追加写真1(png)
image8	短いテキスト	追加写真1(png)
image9	短いテキスト	追加写真2(png)
image10	短いテキスト	追加写真2(gif)
image3OLE	OLEオブジェクト型	OLD型(bitmap)(未使用)
更新履歴	短いテキスト	データの訂正履歴

(3) 靴画像のファイルパスを記録するテーブル

ImagePathTable		
フィールド名	Accessデータ型	説明
ID	オートナンバー型	(主キー)固有番号(表連結に使用せず)
ImagePathFull	短いテキスト	Excelファイルから抽出した画像の収容フォルダ名 (ドライブ名からのフルパス)
ImagePathShort	短いテキスト	Excelファイルから抽出した画像の収容フォルダ名

(4) 被服学科学生作成の靴データのテーブル

東京造形大学テキスタイル学科作成のデータを参考にし、さらに形状や重量の測定、色と柄、ヒールの形状、イメージを表現する言葉、対象性別などを付け加えています。

●B系、●L系、●M系、●RB系、●R系・大系、●S系、●W系、●XF系、●X系、●Z系		
フィールド名	Accessデータ型	説明
EX_ID	オートナンバー型	(主キー)固有番号(表連結に使用せず)
最撮影Flag	短いテキスト	撮影時の最撮影必要のマーク
NO	短いテキスト	Excelファイルでの分類番号(No.) Numに対応
EX_年代	短いテキスト	発表西暦年
コレクション	短いテキスト	シーズン(秋冬A-W, 春夏S-S、2期、3期など)
ブランド	短いテキスト	KISSA や KISSA FOR MEN など
ロゴタイプ	短いテキスト	AやB
EX_メーカー	短いテキスト	製造メーカー名
サイズ(cm)	短いテキスト	
靴の胴回り(cm)	数値型	
ヒールの高さ(cm)	数値型	
重量(g)	数値型	
収納j番号	短いテキスト	
青いファイルの番号	短いテキスト	デジカメ画像ファイル名など
不明な数字	短いテキスト	靴底に書かれた記号など
EX_備考	短いテキスト	補足情報
靴の向き	短いテキスト	右足用、左足用、両方
色	短いテキスト	
柄	短いテキスト	ドット、柄、花柄など
EX_素材	短いテキスト	
ヒールの種類	短いテキスト	フラット、ウェッジ、セットバックなど
靴の形態	短いテキスト	サンダル、パンプス、スニーカーなど
イメージ	短いテキスト	カジュアル、エレガント、ダンディーなど
男女	短いテキスト	レディース、メンズなど
鼻緒の柄	短いテキスト	●Z系で使用
鼻緒の飾り	短いテキスト	●Z系で使用

(5) 被服学科学生撮影の高精細度画像ファイル名のテーブル

各靴の画像ファイルが保存されているフォルダ名とファイル名を登録しています。

Kissa写真ファイル		
フィールド名	Accessデータ型	説明
ID	オートナンバー型	(主キー)固有番号(表連結に使用せず)
Num	短いテキスト	Excelファイルでの分類番号(No.)
dFolder1	短いテキスト	上位階層フォルダ名(B系完など)
dFolder2	短いテキスト	下位階層フォルダ名(B-100完など)
dimage1	短いテキスト	撮影画像1(jpg)
dimage2	短いテキスト	撮影画像2(jpg)
dimage3	短いテキスト	撮影画像3(jpg)
dimage4	短いテキスト	撮影画像4(jpg)
dimage5	短いテキスト	撮影画像5(jpg)
dimage6	短いテキスト	撮影画像6(jpg)
dimage7	短いテキスト	撮影画像7(jpg)
dimage8	短いテキスト	撮影画像8(jpg)
dimage9	短いテキスト	撮影画像9(jpg)
dimage10	短いテキスト	撮影画像10(jpg)

(6) 分類記号とラベルの対照表

kissa表_Num分類ラベル		
フィールド名	Accessデータ型	説明
NumGrp	短いテキスト	(主キー)分類記号(B/L/M/R/RB/S/W/X/XF/Z)
NumGrpLabel	短いテキスト	分類記号のラベル(ブーツ、レディース靴、など)

(7) ダイレクトメール用テーブル

被服学科学生撮影のダイレクトメール、クリスマスカード、年賀状の精細画像を元に、作成された年と月、季節を画像から読み取って関連情報として登録しています。

KissaDM表		
フィールド名	Accessデータ型	説明
ID	オートナンバー型	(主キー)固有番号(表連結に使用せず)
FolderName	短いテキスト	フォルダ名(1.シーズン、2.クリスマス、3.年賀状)
DMFName	短いテキスト	画像ファイル名(jpg)
西暦	数値型	作成西暦年
月	数値型	作成月
季節	短いテキスト	シーズン(S/S、A/W、春、夏、秋、冬)
備考	短いテキスト	補足・関連情報

(8) 年譜データベース用テーブル

「高田喜佐ザ・シューズ」[高田邦雄, 2013] に収録された年譜を関連写真ともにテーブルに登録しました。

年譜DB		
フィールド名	Accessデータ型	説明
西暦	数値型	西暦(1941年から2013年まで)
年齢	数値型	高田喜佐の年齢(0歳から65歳まで)
出来事	短いテキスト	高田喜佐の年譜から転載
関連出来事写真	短いテキスト	高田喜佐の写真や出版物
関連写真FileName	短いテキスト	画像ファイル名

5. 検索の画面（フォーム）の設計

検索のため作成したフォームは 3 種類あります。そのレイアウトはカラー図版を参照してください。

＊「靴検索のフォーム画面の設計」

各靴は、分類記号（XF, X, RB, R, S, M, Z, B, W, L）と連番で識別されています。ブーツの場合、B−1 から B−153 まで、レディースの場合は、L−0 から L−535 まであります。

今回のシステム制作では、属性（年代、メーカー、素材など）での検索は用意していません。最初に、分類（ブーツ、レディース、メンズ、ラバーシューズ、復刻作品、マニッシュ、サボ、草履サンダル）のひとつを指定すると、グループ別の靴一覧が画像で表示されるので、その中から選んで多方向からの詳細画像の観察（拡大可能）や、登録されている属性を調べることができます。分類グループ内の指定した番号の靴にジャンプして表示することもできます。

＊「ダイレクトメール一覧フォームの設計」

精細画像を、作成年の順序に並べて鑑賞できるようにしてあり、年代を選んで作品を探すこともできます。精細画像の特性を生かして、画像の拡大観察を可能にしています。また、全作品の作成年と月、季節を一覧表にしてあるので、特定の作品を直接指定することもできます。

＊「高田喜佐　年譜フォームの設計」

高田喜佐の 64 年の生涯の出来事をテーブルの形で保存し、靴データのテーブルと連結させることで、人生の出来事と作品集を並べて観察することを試みました。作品が生まれた背景や、考え方を理解する上で道具になりえると思います。

今後、さらに表現に工夫を加えてフォームの設計を進めて、関連する資料の登録を進めていけば、同時代の他の資料との関連から様々な発見が得られると思われます。

文字だけで作られた年譜では高田喜佐の生涯をイメージし辛いので、靴作品とのリンク以外に、年譜の時期に対応したスナップ写真や発表された書籍の表紙写真などを表示するようにしました。充実させることができたら、個人のアルバムを見ている感覚に近づくことが出来るのではないでしょうか。

6. 電子図書館、デジタルアーカイブとの関係

インターネットの普及と高度化により、図書館の所蔵する冊子体資料の電子化によるサービスが広まっています。貴重資料の画像を公開するデジタル図書館やバーチャル図書館では、画像データを検索可能なように書誌のメタデータを付加する工夫もなされています。著作権が消滅したものについては容易にデジタル化が出来ますが、そうでないものを一般に利用できるようにするためには、許諾の手続きやデジタル著作権管理（DRM）を検討する必要があり、館内利用に限定してサービスを作り上げた方が自由度の高い設計が出来ると考えました。

＊デジタルアーカイブ構築の目的

高田喜佐の靴のデジタルアーカイブを作り上げる当初の目的として、来館者に所蔵している作品に関する情報を提供して理解を深めてもらうこと、展覧会終了後にも現物を取り出さないで調査研究を進める手段となること、美術館・博物館などでは冊子体資料を背景にした文字情報よりも平面または立体の映像情報や、解説文書が重要であり、それらをデジタルで提供する方法を検討すること、を考えていました。

国立国会図書館が行っている電子アーカイブ事業には、国立国会図書館サーチをポータルとして検索できる「近代デジタルライブラリー」「デジタル化資料（貴重書等）」「歴史的音源」「インターネット資料収集保存事業」などがあります [齋藤, 二村, 石井, 2012]。通常、デジタル化資料であっても、キーワードを指定して検索する利用法ですので、資料間の関係を調べるのは容易ではありません。

あるテーマに沿って集められた資料、作品を所蔵することの多い博物館や美術館のデジタルアーカイブの構築では、資料や作品の相互関係を判り易く紹介する機能を組み込むことで利用価値の高いサービスになると考えられます。来館した利用者には、現在展示していない所蔵資料についても著作権の保護を考慮した状態で、鑑賞や研究利用をしてもらえることになります。

7. アーカイブ利用による新たな視点

神戸ファッション美術館での高田喜佐（1941‐2006）のザ・シューズ展（2013年4月18日から7月2日まで開催）に展示された実物を鑑賞することで、写真画像では得られない新鮮で豊富な印象を得ることが出来ます。視野から消えた後も、関連する情報を参考に作品についていろいろ考究したい場合には、今回作成したデジタルアーカイブは支援できるのではないかと考えます。また、データベースを使って構築しているので、後からわかった事柄を追加していくことは容易で、将来にわたって内容が充実する可能性を持っています。これは、専門図書館自身によるリサーチ・ナビの構築に向かっている試みと言えます。

一例として、今回作成の靴のアーカイブを利用して創作の背景の理解を深めるナビゲーションを受けることができると思われます。年譜フォームの1989年、高田喜佐が48歳の時、母・高田敏子が死去した頃、きものなど和の世界に関心を寄せるとあります。この頃以降、着物姿の写真が多く、草履サンダルやこはぜブーツ（1995年）が発表され、2003年に「暮らしに生かす江戸の粋」を出版しています。また、ダイレクトメールとともに収録された年賀状を見ると、1990年までは新年の挨拶の最後の行を西暦で記載していたものを、1991年からは元号の平成で記載するように変わっています。これも、和の世界を大切にしている態度の表れの一端と感じ取れます。

8. デジタルアーカイブの将来性

今回のシステム作りでは、デジタルカメラによる高精細度の画像の特性を生かす工夫に重点がありました。今後の映像技術の進歩に合わせて、資料や作品の記録を新しい技術で撮り直す機会が到来するのではないでしょうか。

今後、さらに優れた高精細度表示装置や、立体映像の記録および表示装置が登場し、手軽に利用できるようになるでしょうから、デジタルアーカイブはよりいっそう現実感を感じ取れるものに成長していけるはずです。

総務省でまとめられた「デジタルアーカイブの構築・連携のためのガイドライン」［総務省，2012］では、冒頭で、デジタルアーカイブはインターネットでの公開を前提に考えることから、美術館の場合、著作権の保護対象となる資産が多く、すべてをインターネットに公開することが難しいために、デジタルアーカイブ構築の効果が理解されにくいことが考えられると述べています。デジタルアーカイブを構築する組織間での連携まで構想する場合には、美術館は限定的な公開を考えざるを得ないので構築そのものが難しくなります。むしろ、公開について考えるのは後回しにして、先ずは、来館者や研究者に所蔵品の鑑賞や考察を助けて最大限活用してもらえるよう支援するデジタルアーカイブを作ってみて、さらに発展させていく方向を進む方が美術館の目的を深化できるのでないかと考えます。

謝辞

神戸ファッション美術館の浜田久仁雄氏、大山弘美さんには、学館協働事業として高田喜佐のデジタルアーカイブを作成するに際して、データの提供、要求仕様の検討作業でご協力をいただきました。東京造形大学テキスタイル学科の須藤玲子先生作成のExcelファイル形式の靴データを利用させて頂きました。大阪樟蔭女子大学被服学科の北尾和信先生の研究室による、靴とダイレクトメールの高精細度撮影画像を利用させて頂きました。ご協力いただいた方々にお礼を申し上げます。

参照文献

岡紀子，田中邦英．(2013)．図書館と情報技術．樹村房．

公益財団法人花と緑の農芸財団．（2008年春に発行の「花の心第49号」）．tan－探－探求探訪　生活者の詩－高田敏子さんの生涯．参照先：公益財団法人花と緑の農芸財団：http://hananozaidan.or.jp/tan49_1.html

高田喜佐．（1986）．私の靴物語．主婦と生活社．

高田喜佐．（1988）．ジャズマンは黒い靴．マガジンハウス．

高田喜佐．（1988）．私の靴物語．講談社．

高田喜佐．(1991)．Shoe, Shoe PARADISE．リブロポート．

高田喜佐．（1991）．素足が好き．大和書房．

高田喜佐．（1994）．大地にkissを：喜佐の靴あと．文化出版局．

高田喜佐．（1995）．太陽と靴と風と．河出書房新社．

高田喜佐．（1999）．靴を探しに．筑摩書房．

高田喜佐．（1999）．裸足の旅は終らない：靴と私の物語．学習研究社．

高田喜佐．（2000）．素足が好き．筑摩書房．

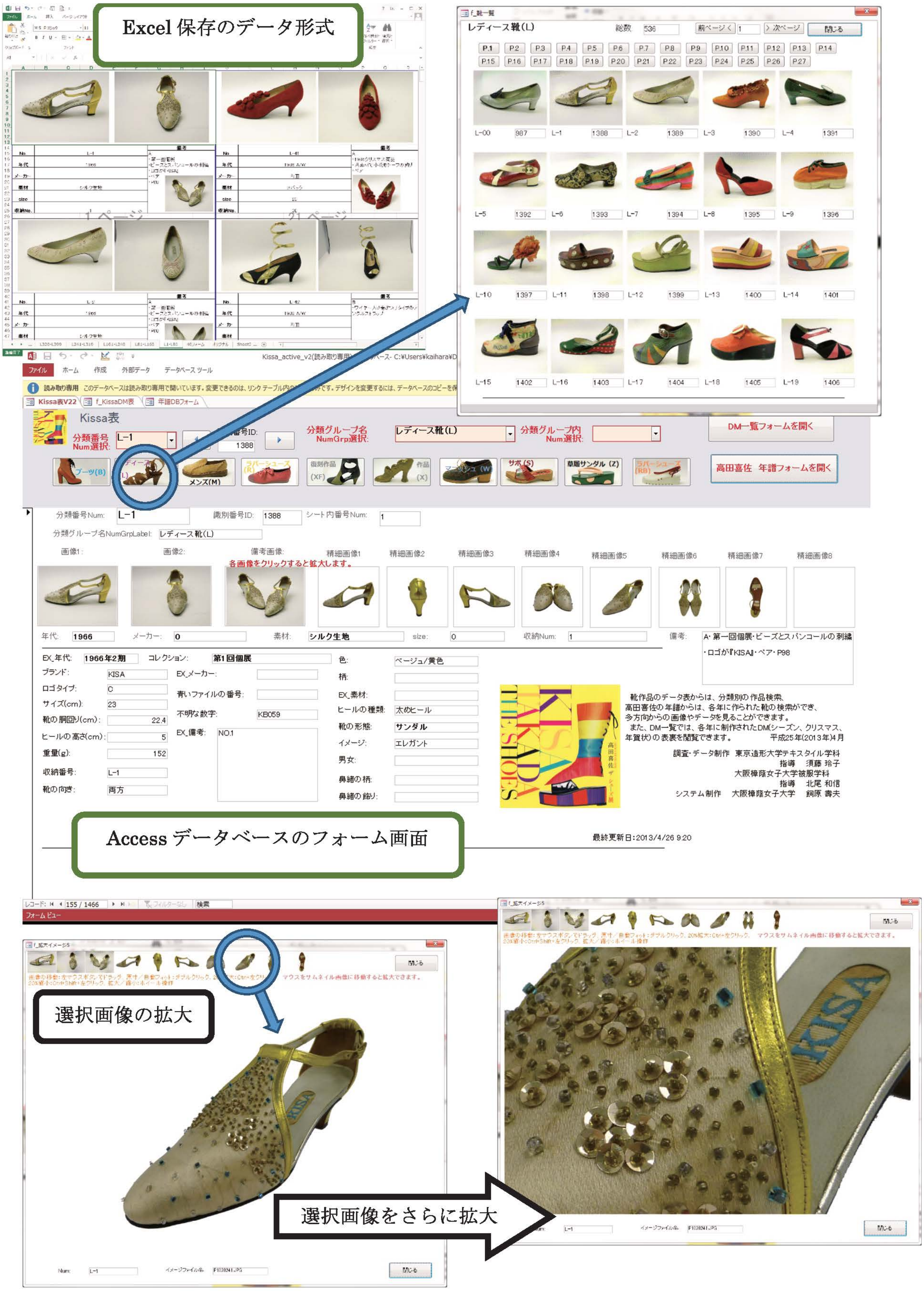
高田喜佐．（2003）．暮らしに生かす江戸の粋．集英社．

高田邦雄．（2013）．高田喜佐ザ・シューズ＝Kisa Tkada The Shoes．繊研新聞社．

総務省．（2012年3月26日）．デジタルアーカイブの構築・連携のためのガイドライン．参照先：http://www.soumu.go.jp/main_content/000153595.pdf

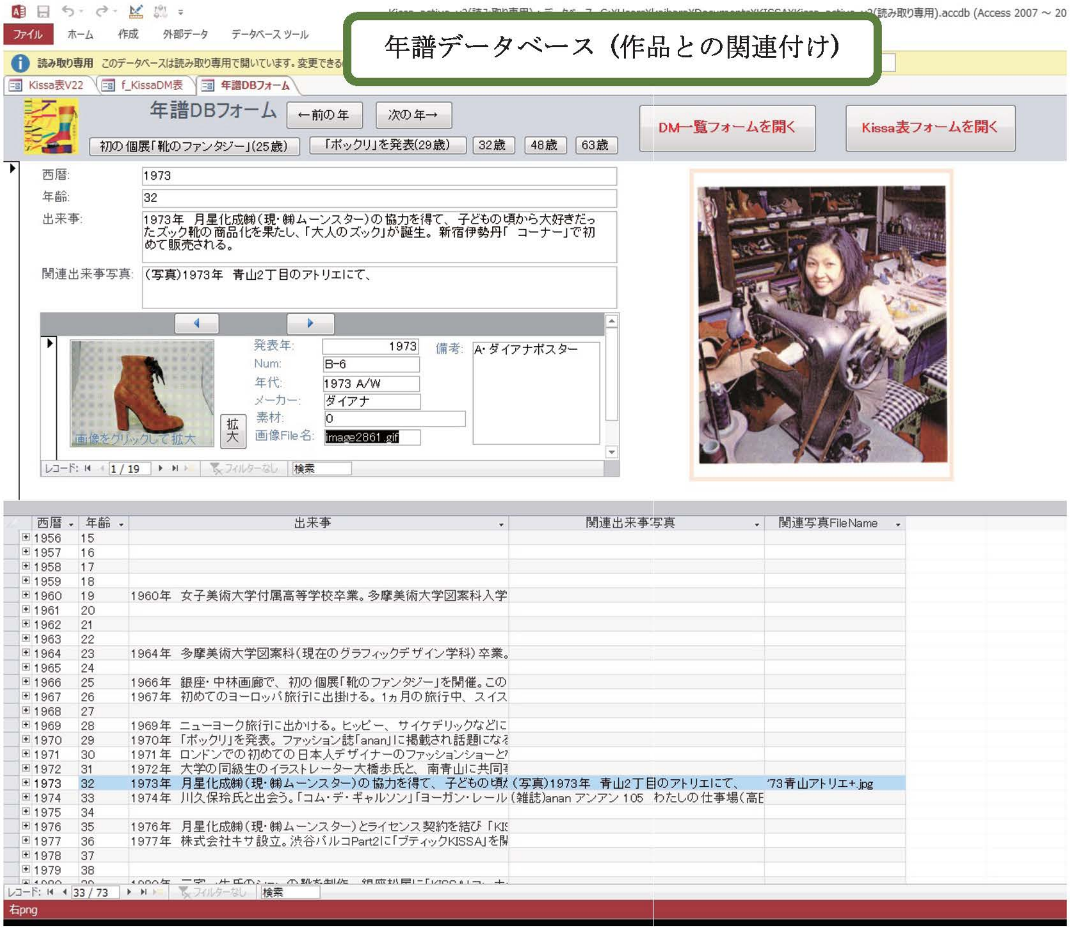
齋藤ひとみ，二村健，石井大輔．（2012）．図書館情報技術論．学文社．

シューズデザイナー高田喜佐のデジタルアーカイブ作成



ダイレクトメール・クリスマスカード・年賀状

年譜データベース（作品との関連付け）



Construction of Digital Archives of Shoe Designer Kisa Takada: Demonstration at Shoe Exhibition

Faculty of Liberal Arts, Department of Fashion and Beauty Sciences
Toshio KAIHARA

Abstract

An exhibition showcasing the shoes of designer Kisa Takada was held in the Kobe Fashion Museum. For this exhibition, the art museum received about 1,600 donations of shoes and related items. The author constructed a relational digital archive database that incorporated the donated shoes and items with a biographical sketch of the designer, and then provided it to museum visitors. The digital archive database was used throughout the duration of the shoe exhibition. The data included eight tables, which were mutually associated through the relational database. In this way, a better understanding of the background of shoe creation could be promoted by the system. Visitors could operate the database system easily. For example, high resolution images of the shoes and the associated advertising postcards, illustrated by Kisa Takada, could be easily selected, and all navigation could be performed smoothly using a computer mouse. As for the biographical sketch and designer's historical works, all major events and designs were incorporated into the database, and an easily accessible search function was included.

Generally speaking, most current organizations construct digital archives for the purpose of providing their services over the Internet. Furthermore, having such archives facilitates cooperation among organizations. However, in the case of this art museum, the author determined that because of the characteristics of the required service and the information to be disseminated, a limited, intra-museum system for the purposes of reference and research was the most appropriate course of action.

Keywords: Digital archives, Image database, Shoes, Fashion, University-museum cooperation, Microsoft Access